

稲門寄席

at 大隈小講堂

2011年10月16日(日)

13:00開演 / 14:30終演

入場無料



2011
稲門祭

HOME COMING DAY

2011. 10.16 SUN



演目「親の顔」



またも家 楽大

ききどころ ● 演者は、本年3月まで約40年間、大学の教壇に立っていた。最も苦労したのは、約1000枚もの答案を限られた期間で採点・記入することであった。そのような実体験にちなみ、演目として「親の顔」を選んだ。子どもの答案をめくり、ずっこけ親子と教師との珍無類の会話がミソ。「給食にスープが出ました。男子は2分の1、女子は3分の1、飲みました。残りはどれだけでしょう」。この問題に対して子どもはどんな解答をするか？ それに対する親の反応は？ 教師の態度は？ ほのぼのとした笑いをお楽しみください。

略歴 ● 1940年富山県生まれ。本名＝西 修。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、同大学院政治学研究所博士課程修了。政治学博士、法学博士。専攻は憲法・比較憲法。駒澤大学法学部にて37年間、教鞭をとり、本年3月定年退職。現在、駒澤大学名誉教授。その間、早稲田大学政治経済学部、同商学部、同大学院政治学研究所非常勤講師を務める。著書は『憲法体系の類型的研究』などの学術書から、『ここがヘンだよ！日本国憲法』などの一般書にいたるまで幅広い。昨年まで10年間、駒沢落語会を主宰、プロと競演してきた。早稲田大学法学部卒業の桂右團治師匠の一番弟子を自任。昨年の駒沢落語会で名誉真打ちを授与される。アレンジ作を得意とし、「火焰憲法」「五度狐」「天狗裁き」「道灌」「源平盛衰記」「子は錠」などを演じた。

演目「大隈重信」

ききどころ ● 校友会設立125周年の平成22年に校友会東京都23区支部からの依頼で創作された作品。幕末から積極的に英語を学び、自分自身で英語学校を創設するなど進取の精神を発揮していた大隈八太郎。大政奉還を推進し勤皇の志士として活動する中で明治維新を迎える。英語力を活かして長崎の外国事務局勤めとなるが、時代の波は彼の能力を放ってはおかなかった。中央政府に招かれ、英国公使ハリー・パークスとの対決、薩長の藩閥政治との対立…。その中で日本の近代骨格を整えるとともに、立憲政治、政党政治という民主主義の基本を作りあげてゆく。波瀾万丈の生涯を講談で再現。

略歴 ● 1962年兵庫県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。卒業後、情報誌「シティロード」に入社。演劇担当。後に副編集長。二代目・神田山陽の講談に出会い、1990年に入門。以後正当派の講談を学ぶ。講談独自の「修羅場」を含む本格的古典によって鍛えられた歯切れのいい口調を駆使して、レポート講談、新作講談（『講談ビル・ゲイツ』『坂本龍馬シリーズ』『はやぶさの帰還』など）も数多く発表している（これらはネット上にアップされているものも多い）。出演作品にゲーム『ラーメン橋』『幻想のアртеミス』『さらば宇宙戦艦ヤマト』。CD作品に『講談は昭和を語るのか』『昭和立志伝』ヨネックス 米山稔『講談 大隈重信』など。



神田 陽司

演目「抜け雀」



古今亭 菊太楼

ききどころ ● 東海道小田原の宿で、相模屋という粗末な宿屋を営んでいる主。あまりにも粗末なため、客引きをしてもなかなか泊まってもらえず困っているところに、やってきたのがみすばらしいなりをしたお侍。泊まってくれたのはいいのだけれど、この客が一日中酒を飲んで部屋でごろごろ寝てばかりいる。怪しいと思い問いただすと、この客が一文無し。商売を聞いてみると狩野派の絵師だという。“大工だとか、職人ならば宿賃のかたに何かこさえてもらえるのに”と困っていると、「よし、宿賃のかたに絵を描いて行ってやろう」と主が断るうとするのも聞かずに、無理やりに絵を描いてこの客は宿屋を出て行ってしまっただが…。

略歴 ● 1968年長崎県生まれ千葉県育ち。早稲田大学商学部中退（早稲田大学落語研究会出身）し、1995年古今亭円菊に入門。前座名は菊一。1999年に二つ目に昇進し、菊可と改名。2008年真打に昇進、菊太楼と改名し、現在に至る。伝統的な古典を得意とする実力派。趣味は前座の頃の修行で培った掃除と散歩。腕前はプロ級との評判。使っている出囃子は紀文大尽。